

17年度技術研修会を開催

環境や防災、維持管理テーマに

ミラクルソル協会など5団体

ミラクルソル協会(原裕理事長)が主催する技術研修会が22日、唐津市文化体育館の文化ホールであった。コンサルタント会社や建設会社、自治体

などから163人の技術者が参加し、環境や防災、維持管理技術について知識を深めた。技術研修会はミラクルソル協会が主催で、▽佐賀県ジオファイバー協会▽佐賀県ニューレスプ協会▽RCGI



会場のようす

▲講義を行う原理事長



ンナーシール協会▽タフグリーン工法研究会の4団体が共催。2部構成となっており、環境、斜面防災、道路橋梁の維持管理をテーマにさまざまな研修が行われた。

第1部では原理事長

が「気候変動と災害」としてミラクルソルの環境負荷低減技術」の演題で講義。「二酸化炭素の累積総排出量とそれに対する世界平均地上気温の対応がほぼ比例関係にある」とする気候変

▲講義する近藤次長



動に関する政府間パネル(IPCC)がまとめた報告書を紹介し、地球温暖化対策の必要性を強調。広島の上砂災害や九州北部豪雨災害などを取り上げて発生要因を解説した上で、「今後、地域の建設業が担う役割は大きい」と説明した。

また、講義ではガラス廃材でつくったミラクルソルの製造方法や特徴、ミラクルソルを使った工法などを紹介し、「工法選定の段階で安全・機能性や経済性に加え、環境および耐久性の指標を持つて工法を選ぶ必要がある」と話した。

策工の設計施工について」と題し、吹付法面の診断方法、調査設計、老朽化吹付法面補修・補強対策、ジオファイバー工法やニューレスプ工法の概要および設計施工の留意点を解説した。

第2部では「環境保全と人工腐植化技術(講師は国土防災技術(株)佐賀営業所の小川伸彦所長)」、「グラウンドアンカー健全度調査例 維持管理性・長期定着特性に優れたF i x r g グラウンドアンカー工法(講師はサンスイ・ナビコ(株)営業部の田村允氏、高橋里沙氏)」、「道路橋におけるコンクリート表面保護工法と鋼橋の部分塗装技術について(講師は岡三リビック(株)バイブテクノ部の沼田治次長)」の演題で研修を実施した。

このほか会場では、パネルディスカッションや質疑応答なども行われた。